



とらいあんぐる



2019 年 1 ・ 2 月

一音会ミュージックスクール発行

「ふるさと」

母、江口寿子が亡くなり、1月26
日で7年になります。

この7年間、母のことを思い出さな
い日は、1日としてありませんでした。
いまだに、です。

良いおとなが、と思いますが、本当
のことなので、仕方がありません。

泣けてきて仕方がない時もあります。
母を亡くして3年間くらいは、「はや
くこの悲しみから立ち直らなくては」
と、焦っていました。

こんなに長い間、日々とらわれてい

るのは、情けないとも思っていました。

1つには、それだけ苦しかったので
す。

はやく悲しみが癒えてほしい。

そして、はやく楽になりたい。

その一心だったのだと思います。

しかし、紆余曲折を経て、今の私は、
「はやく悲しみから抜けなくては」と
思わなくなっています。

どこか「苦しいままでいいや」と思
っています。

いっそ死ぬまで、グジグジグジグジ、
母のことを思い続けていようと思いま
す。

死んでもなお、思われ、頼られることは、幸せなことです。案外、母もまんざらではない、と思いたいです。

少なくとも母は、「はやく、しゃんとしなさい」とはいわないはずです。いえ、いえないはずなのです。

なぜなら、母自身が、自分の母親のことを、いつまでもいつまでも、グジグジグジグジ、思い続けていた人だからです。

母は自身が死ぬまで、亡くなった両親、特に母親の死からは立ち直れていませんでした。

祖母が亡くなったのは、今からちょうど30年前でした。母が亡くなったのは7年前ですから、20余年という歳月をもってしても、母は立ち直れていなかったことになります。

よく祖母の夢を見ていました。

朝、ひどく泣いていることもありました。

母は、自分の母親に対する思いを、この「とらいあぐる」でも、よくはきだしていました。

今、私がおこなっていることと、そっくりです。

母が20余年、抜け出すことができなかったくらいですから、まだ7年にしかならない私は、当分の間、この悲しみから抜け出すことができないのでしょう。

そう分かって、絶望的ではありません。意外なことです、悲しみから抜け出せない自分を「これでいいんだ」と肯定できることは、私にとって楽なことでした。

焦りがなくなり、力が抜けました。

そして、私はいつしか、母の心境に追いつくことができるようになってきたのです。



母は、「ふるさと」の歌が好きでした。

「うさぎおいし かのやま こぶな
つりし かのかわ」

という、あの有名な歌です。

母は「ふるさと」をきくと、決まっ
て涙を流していました。

涙する頻度と度合いは、歳をとるご
とに増していったように思います。

確かに胸にせまるメロディーです。

でも母は、本当に好きなのは歌詞だ
とっていました。

ふと、母の「ふるさと」はどこなの
だろう？と考えます。

母が生まれたところは麻布です。戦
後は、文京区本郷に暮らし、おとなに
なってから亡くなるまでは、ずっと豊
島区、一音会のある椎名町で暮らしま
した。

母が生きた地域には、ウサギを追う
山もなければ、小鮎をつる川もありま
せんでした。ずっと都心暮らしなので
す。

「ふるさと」の歌詞のどこに共鳴し
ているのだろう？と不思議に思ってい

たことがありました。

「ふるさと」は、自然豊かな地域で
生まれ育った人が、その地をはなれ、
ふるさとの景色をなつかしむ歌と理解
していました。

私自身の生まれ育った環境も、母と
同様です。

山や川に触れた経験が極端に少なく、
私にとっての「ふるさと」の景色をし
いて挙げるなら、椎名町の駅前のサン
ロードあたりでしょうか。

ところが、実は私も、母をなくして
以降、「ふるさと」をきいて、涙するよ
うになりました。

母がどんな思いで、この歌をきいて
いたか、痛いほど分かるようになって
しまいました。

母がこの歌を好きだった理由も、今
の私なら分かります。

母をなくし、歳をとり、当時の母の
気持ちに自分の気持ちが重なるようにな
ったのだとしたら、悪いことばかり
ではない、と思えます。

「ふるさと」の歌詞には、実はこん

な部分があります。

志をはたして

いつの日にか帰らん

ああ、この部分だったのか、と気づきます。

母が共鳴していたのは、この部分の歌詞でした。

「志を果たして、いつの日にか帰ろう」

母は、そう思って、がんばっていたのか・・・と気づきます。

帰る先は、母にとっての「ふるさと」です。

そう、母にとっての「ふるさと」は、母親そのものでした。

私にとっての「ふるさと」も、母その人です。

母のことを思うと、ふるさとを懐かしむような気持ちになります。切なくなり、涙があふれます。

いつか、私も母のもとに帰ります。

今は、離れてしまっていますが、心

はいつも、母のもとにあるような気持ちがしています。

帰るべきところは、1つです。

いつか帰るんだ、いつか帰るんだ・・・、そう思うだけで、心があたたくなり、身体の奥に力が宿ります。まさに「ふるさと」です。

ただし帰るのは、「志を果たして」です。

「ふるさと」に帰って母に会った時、私は母にこういわれたいのです。

「アヤコ、よくがんばったわね。ありがとう」

「なんと、子どもじみた！」と、自分でもおかしくなってしまいます。

でも、「志を果たして、いつの日か母のもとに帰るんだ」という思いが、今の私の原動力になっていることは確かです。

「ふるさと」には、人を幼子にしてしまう力があると同時に、人をふるいたたせる、不思議な力があると感じるのです。

(江口 彩子)

◆今年もよろしくお願いたします

2019年がスタートしています。

今年も、生徒さんやご家族の皆さまにとって、素晴らしい1年になりますようにと、心から願っています。

スタッフ一同、心新たに、指導をスタートさせています。すでに「ピアノ・トライ」がはじまり、「フォルテの会」をひかえています。それが過ぎれば、新年度スタートです。プリドノフ先生来日、オーディション、ジュニア・コンサート開催、そして夏の「ピアノ発表会」です。

今年も駆け抜けるような1年になるのでしょうか。そして、ご家族の皆さまには、今年も、多大なご協力をいただくことになるのでしょうか。いつも皆さまの深いご理解とご協力には、感謝の気持ちでいっぱいです。

どうか今年もよろしくお願いたします。



◆「ピアノ・トライ」がはじまります

今年最初のイベントである「ピアノ・トライ」が、1月26日（土）を皮切りに、スタートしています。

今年もたくさんの方にお申し込みをいただきました。あまりにも早く、満員となっ

てしまった日は、枠を急遽、追加しました。現状、希望通りでない方や、お申し込み後にご予定が変わってしまわれた方は、一度、本部までお問い合わせください。もしかしたら、よりご都合にあった形でご案内できるかもしれません。〔03-5966-7711：担当・矢島、伊藤〕

また、この時期は、風邪をひきやすい季節でもあり、体調をくずしてしまう生徒さんが出てくるのが予想されます。当日、体調が悪い場合には、後の日程に振り替えることができますので、どうぞ無理をなさらず、ご相談ください。

今年度の「ピアノ・トライ」は、下記のとおりです。お時間につきましては、お申し込みくださった方に、個別にご案内しています。

- | | | |
|---|-----------------|----------------|
| ① | 1月26日(土 2・4) | 初級・中級(山本先生予定) |
| ② | 1月27日(日②) | 初級・中級(夏目先生予定) |
| ③ | 2月 3日(日) レッスンなし | 中級 (午前 夏目先生予定) |
| | 〃 | 初級 (午後 能勢先生予定) |
| ④ | 2月11日(月・祝) | 初級・中級(能勢先生予定) |
| ⑤ | 2月16日(土 1・3) | 初級・中級(山本先生予定) |
| ⑥ | 2月17日(日①) | 中級 (夏目先生予定) |

「ル・コンセール」は、2月10日(日)、3月3日(日)です。

両日とも第1部11:00から、第2部13:00から行います。生徒さんの演奏後、講師演奏も行います。

2月10日(日) 秋田 真緒 先生 ショパン：ソナタ第2番 第1、2楽章

3月 3日(日) 勝俣 はんな先生 アルベニス：イベリア組曲より

「ル・コンセール」は、ご出演の生徒さんやご家族以外の方でも、ご入場いただけます。ぜひお友だちにもお声をおかけください。入場無料です。

ご出演ではない方も、今後のご出演の準備をかねて、ぜひききにいらしてください。
まだピアノのレッスンを受けていच्छらない小さな生徒さんもお入場いただけます。

たくさんの方に足をお運びいただけますよう、願っています。



◆ 「フォルテの会」を開きます

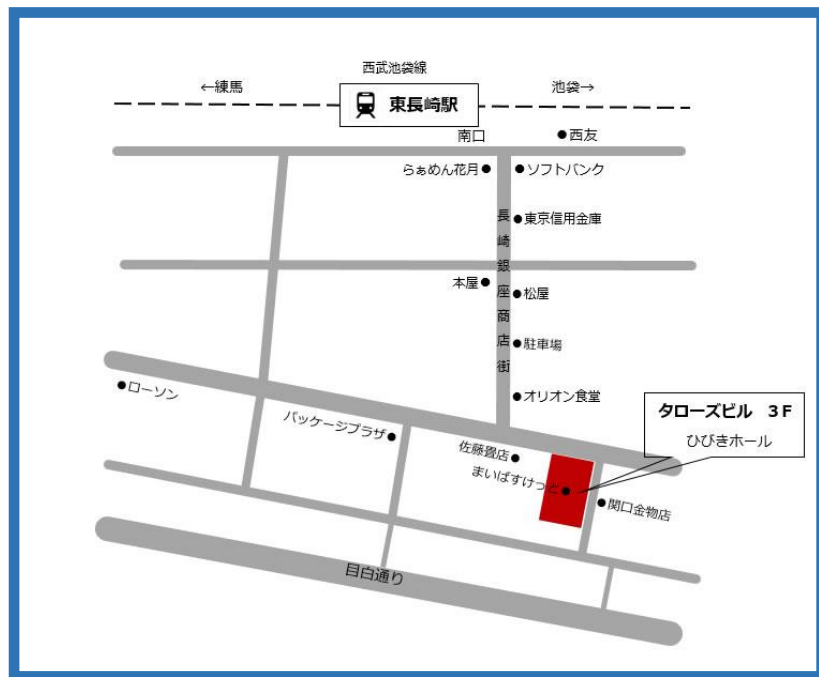
2月3日（日）に、「フォルテの会」を開きます。

「フォルテの会」は、ヴァイオリン、フルート、作曲、声楽などの副科と、「うたくらぶ」（合唱）の生徒さんたちの発表会です。

場所は「ひびきホール」、11：30開場、12：00開演です。

入場無料ですので、お気軽に足をお運びください。特に、副科に興味をお持ちの生徒さん、ご家族の方には、ぜひお越しいただきたいと思っています。

声楽の加藤裕子先生による講師演奏も予定しています。



ひびきホール：西武池袋線「東長崎」駅北口より徒歩7分 タローズビル3F

◆新年度のレッスン希望表をご提出ください

現在、「今年のあゆみ」とともに、「新年度資料冊子」「一音会ガイドブック」、「2019年度変更希望表」、「ピアノキャンペーンのお知らせ」「リトミックのすすめ」「月謝表」を、お配りしています（お月謝は今年度と変わりません）。

すでに受けているレッスンのことはお分かりになっても、まだ受けたことのないレッスンについては、お分かりにならないことも多くあると思います。「一音会ガイドブック」には、この時期、皆さまからお受けすることの多いご質問を載せてみました。リトミックのこと、ソルフェージュのこと、アドバンスコースのこと・・・どうぞ、お時間の許す時にご覧になってみてください。

「ガイドブック」でカバーできていない内容もあると思います。そうした内容につきましては、直接、お問い合わせください。生徒さんお一人お一人のご事情をふまえ

て、ご相談に乗らせていただきたいと思います。

「変更希望表」は、来年度の、レッスン科目、曜日、時間のご希望をおうかがいするものです。たいへんお手数ですが、全員の方にご提出いただきます。変更をご希望ではない場合にも、「変更なし」としてご提出ください。

新年度からのスケジュールが、はっきりとは分からない場合には、仮の希望をいったんお出しください。スケジュールがはっきりし次第、後日、改めてお出しいただければ大丈夫です。

なお、曜日や時間を変更する場合には、ほとんどの場合、担当が変わることをご理解ください。現在、その日時に受けていらっしゃる生徒さんが、最優先となるためです。もちろん、ご希望の日時の付近で、現担当の手をあげることができそうな場合には、できるかぎり担当を変えずにお組みするよう、努力いたします。

また、担当が変わる場合にも、個々の生徒さんに、一番適したスタッフが当たるよう、考慮いたしますので、ご安心ください。

ご希望は、担当の先生の目にふれることなく、本部で処理します。ご遠慮なく、率直なご希望をお書きください。

新年度のスケジュールを確定するまでには、ご希望をおうかがいするために、こちらからご連絡をさせていただくことがございます。

お忙しい方が増え、ご家族の方と、お電話ではなかなか連絡がとれないことが増えています。日中、お電話に出ることができない、そして折り返すことが難しい、というご事情もよく分かります。そのような場合、メールでおうかがいやご相談をさせていただけますと助かります。変更希望用紙には、ぜひメールアドレスもご記入いただきたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

希望表は、2月17日（日）までに、添付の封筒に入れて、ショパンはうす受付にご提出ください。本部あてに郵便でお送りいただくこともできます。

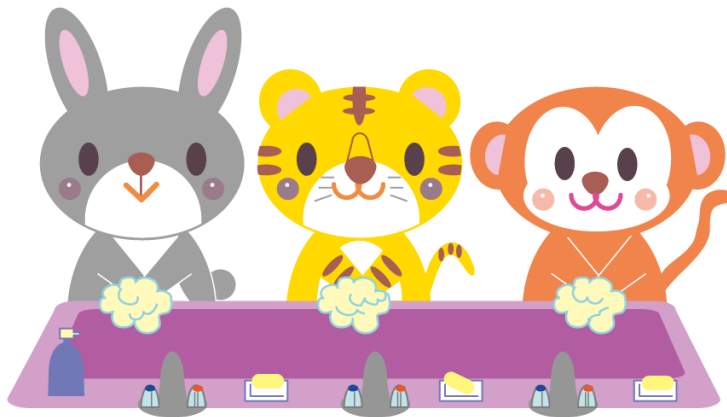
本部住所：〒171-0051 豊島区长崎 3-19-1

◆インフルエンザが流行っています

インフルエンザの本格的な流行期に突入しました。すでに学級閉鎖となった学校もあるようです。

スタッフも、感染防止のために、あらゆる努力を重ねています。部屋を換気したり、鍵盤を消毒したり、生徒さんの中で感染がおこらないよう、気を配っています。

生徒さんにも、ぜひ予防につとめていただきたいと思います。レッスンの前後には手を洗うようになさってください。咳やくしゃみが出る場合は、マスクをご着用ください。マスク着用のまま、レッスンを受けてくださってかまいません。教室でも使い捨てマスクをご用意していますので、ご入用の際は受付でおっしゃってください。ご協力をよろしくお願いいたします。



*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。